

# 潮流

今、テレビ、ビデオ、アニメ、インターネット、ケータイなどの電子映像メディア、さらにはコミック雑誌や子ども向けの各種マガジンなど子どもたちのまわりにどんな情報が氾濫（はんらん）しているか、皆さんはご存じでしょうか。世界中で日本ほど、子どもたちが自由に電子映像メディアと接している国はありません。

また、ケータイと俗称される携帯電話は国民の二人に一人が持ち、世界に類を見ない速さで中高生に普及しています。大人が緊急に連絡できる便利な電話と考えて買いつけているものを、子どもたちは友達と常に繋（つな）がっていられるメールのできる便利なアイテムとして、音楽やゲーム、さらにテレビを楽しんだり、ショッピングをしたり、新しい出会いを求めることのできる多機能を持ったインターネット末端として利用しています。このケータイは、まさにモンスター・メディアとして子どもたちに多大な影響を及ぼしています。

このようにさまざまなメディア情報は子どもたちの価値観や行動に影響を与えます。情報の送り手の真意を十分読み取る能力がなければ、相手の意のままになったり、マインドコントロールされてしまう可能性もあります。また、乳幼児期の早期から、長時間のテレビ、ビデオへの接触は子どもたちの言葉の発達に影響したり、親子のふれあいの時間や実体験、コミュニケーションの不足をもたらし、遅寝、遅起き、睡眠不足など生活習慣の乱れを引き起こします。氾濫するメディア情報による非行や犯罪の発生などの影響も懸念され、諸外国はケータイなどの電子映像メディアの影響を受けて日本の子どもたちがどうなっていくのかを見守っています。

平成十五年に鳥取県PTA協議

## メディアとの接し方

松田 隆

鳥取県中部医師会副会長  
NPO法人未来副理事長

会が保護者、児童・生徒を対象にテレビ・メディアのアンケート調査を行い、その結果を第五十一回の日本PTA全国研究大会鳥取大会で発表しました。それをきっかけに、平成十六年度より鳥取県教育委員会がメディアアリテラシー啓発推進事業をPTAに委託し、各地域でノーテレビデーなど子どもとメディアのより良い関係づくりをめざして取り組まれてきました。そして、昨年から県の教育委員会が、子どもとメディアにかかわる人たちに呼びかけて、「鳥取発メディアとの接し方フォーラム実行委員会」が組織され、平成十七年十月に第一回フォーラムを米子で開催し、問題提起をしました。



2005.12.7

この時代です。そして、いつでも、どこでも犯罪の加害者や被害者になりうる時代にわたしたちの子どもは生きています。これからは子どもから大人までメディアと上手につきあいながら、自分で問題解決できる能力を身につけていく必要があります。子どもの未来にかかわる問題として、われわれ大人が本気で考え、情報時代に生きる子どもたちを取り巻く環境を整えていく必要があると思います。

全国に先駆けて、子どもたちを取り巻くメディア環境の問題解決に向けた具体的方策を探る「第二回とっとり発メディアとの接し方フォーラム」が平成十九年一月十四日、県民ふれあい会館で開催されます。メディアとのより良い接し方をみなさんと一緒に考えてみませんか。問い合わせは電話0857(26)7520、県教育委員会家庭・地域教育課へ。

(倉吉市)